

2017.7.4

「保険フォーラム」基調講演

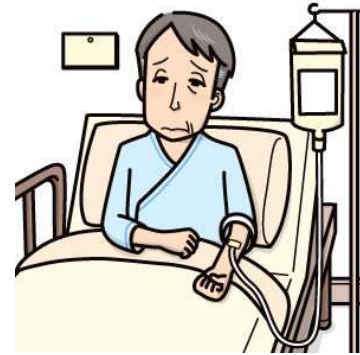
— 公的保険制度の現状と
私的保険の社会的役割 —

林 晋

1. 私たちの社会を取り巻くリスクと保険

- 私たちの社会を取り巻くリスク

- 私たちの社会生活には多くのリスクが潜んでいる。
- 例えば、



- 実際にリスクが発生する可能性やリスクが起きた時の損害の程度はさまざまだけど、…。
- リスクを認識し、対処方法を考えることは、私たちのくらしの営みには欠かせないこと。
- 「リスク」の対処方法
- もしも自身の身にリスクが起きてしまったら…。

<ケース1>

- もしも、病気で長期入院してしまったら。

- 治療費等の支払い

- 主な生活保障手段
 - ① 公的医療保険
 - ② 民間保険会社を取り扱う医療保険、傷害保険
 - ③ 預貯金

<ケース2>

- もしも、自動車で事故を起こしてしまったら。
- 損害賠償金の支払い
- 主な生活保障手段
 - ① 自動車賠償責任保険(自賠責)
 - ② 任意の自動車保険

<ケース3>

- もしも、働き盛りの父親が亡くなってしまったら。
- 必要資金の確保
- 主な生活保障手段
 - ① 公的年金保険(遺族年金)
 - ② 生命保険

- 思わぬ出来事(偶然の事故等)
⇒ 多額の損失や費用が発生したり、収入がなくなったり。



2. 経済的リスクに備える生活保障手段

- リスクに対する主な生活保障手段

- ① 公的保障（日本の社会保障制度）

- 社会全体の責任として国民の「健康で文化的な最低限度の生活」を保障

- ② 企業保障

- 企業が従業員の福祉のために設けている。

- ③ 個人保障

- 各自が自分のために準備する。

3. 公的保険(社会保険)の現状

- 公的年金保険、公的医療保険、公的介護保険、労働者災害補償保険、雇用保険の5つ。

- (財源)

- (社会保険方式)

- 被雇用者は保険料が給与等から天引き。

(参考)公的扶助は、生活保護法に基づき、国の責任において生活困窮者に必要な保護を行い、自立を助けようとする制度。税金で運営され、所定の要件を満たせば、誰でも給付を受けられる。

- 公的医療保険制度のしくみ

- 医療機関で病気やケガの治療を受ける場合、健康保険証を提示すると、

- ⇒

- ⇒

- ⇒

- ⇒

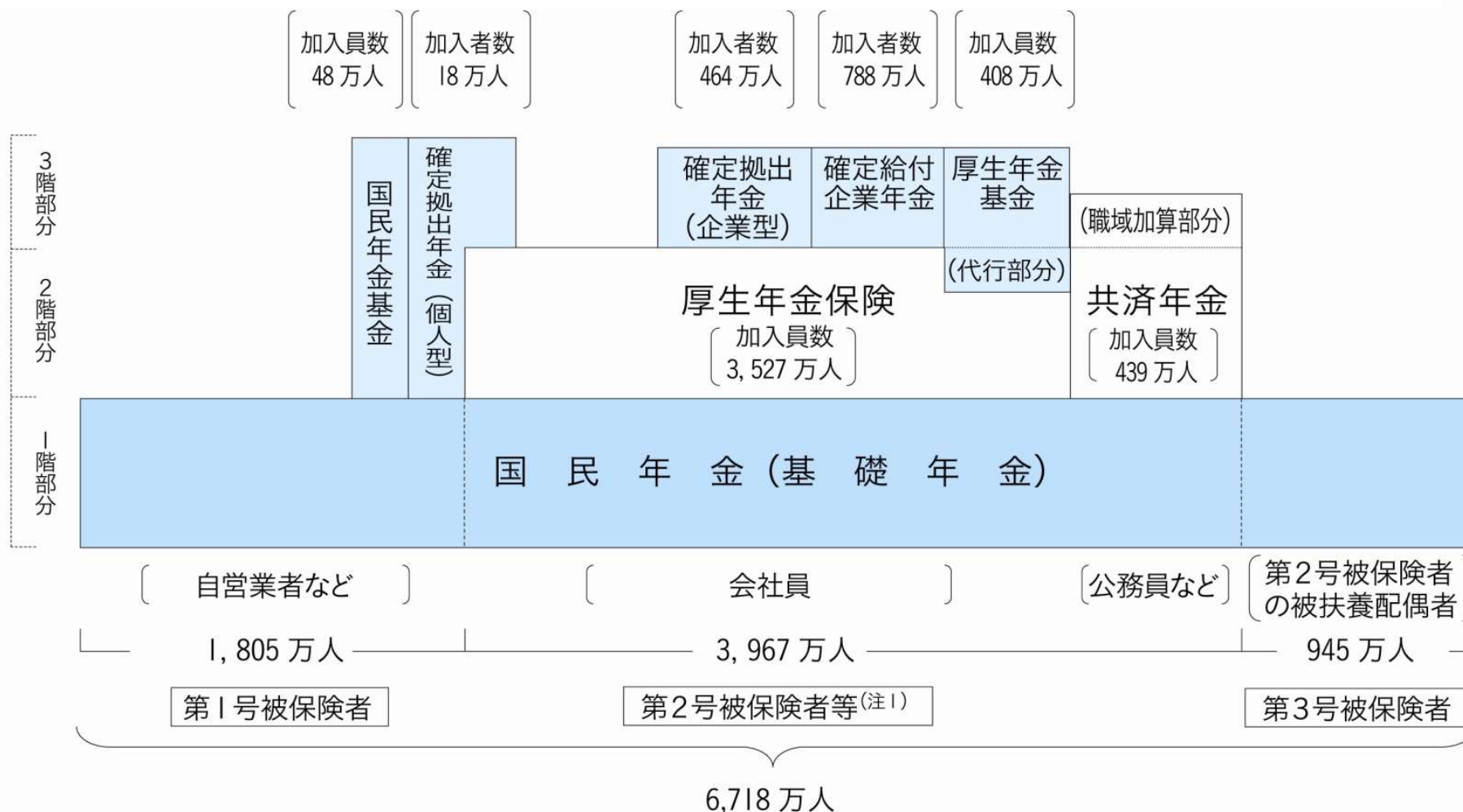
- 高額療養費制度とは

- 医療費の負担が3割といっても、長期入院した場合には、自己負担が高額になることもある。

- ⇒

- * 医療機関や薬局の窓口で支払う医療費が1か月（歴月：1日から末日まで）で上限額を超えた場合、超えた額を支給する。
- * 上限額は、年齢や所得に応じて定められている。

公的年金制度のしくみ(公的年金制度の概要)



注1: 第2号被保険者とは、被用者年金被保険者のことをいう(第2号被保険者のほか、65歳以上で老齢、または、退職を支給事由とする年金給付の受給権を有する者を含む)。

注2: 数値は平成26年3月末。

注3: 2015年10月に共済年金は厚生年金に統一された。

出所: 厚生労働省 『年金制度のポイント 平成27年度』。

- 公的年金制度の特徴

- ① 国民皆年金制度

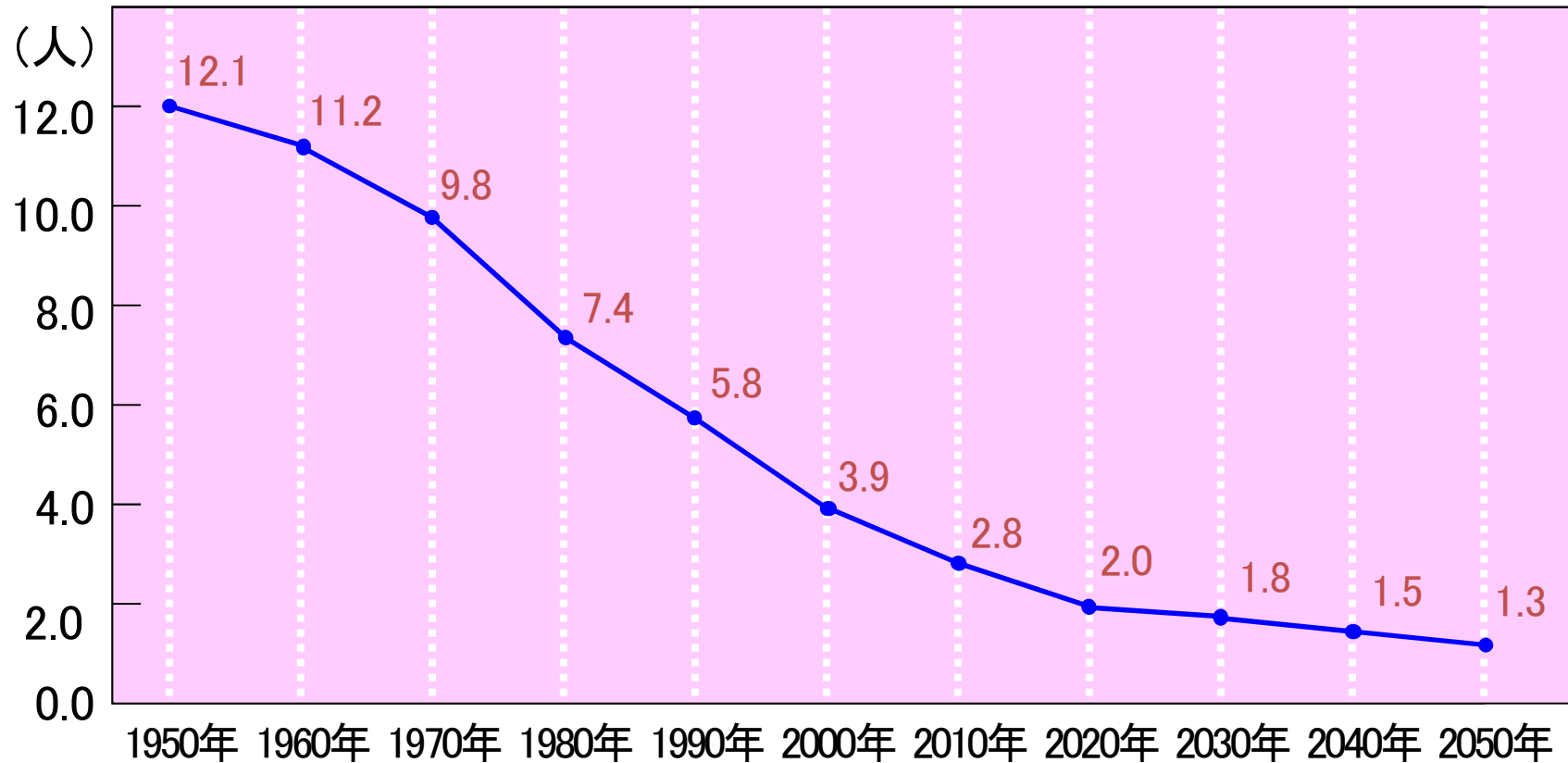
- ② 社会保険方式

- ③ 世代間扶養：公的年金の給付金の調達方法

- 公的介護保険制度のしくみ
 - 2000年に導入された新しい社会保険で、主に高齢者の介護にかかわる費用負担の軽減が目的。
 - 運営主体は市区町村。
 - 被保険者は、第1号被保険者が65歳以上の者、第2号被保険者は40～64歳で公的医療保険加入者。
 - 介護保険料は、40歳から納付義務がある。
 - 給付対象は、第1号被保険者の場合は、市町村により要介護認定を受けた者、第2号被保険者の場合は、末期がん・関節リウマチ等の加齢に起因する疾病(特定疾病)により要介護認定を受けた者。

- 公的社会保険制度の少子高齢化による影響
 - 公的社会保険は、現役世代が支払う社会保険料で高齢者の給付を賄うという考え方が基本。
 - 平均寿命の伸びと出生率低下
⇒
 - 少子高齢化が進み現役世代の負担が増大
⇒
 - 社会保険全体の見直しが検討
⇒

■ 1人の高齢者を支えるための生産年齢人口(15～64歳)



2010年までは総務省「人口推計」、
2020年以降は国立社会保障・人口問
題研究所「日本の将来推計人口」より。

3. 私的保険のしくみと社会的役割

- 私的保険のしくみを理解する大切な原則と法則

■ 大数の法則

- 偶然に発生する現象において、数少ない経験ではバラツキが大きくなるが、多くの経験を集めると、現象の発生率が一定の値に近づくこと。
- 死亡率や交通事故発生率も、大きな集団になると一定の数字に近づくため、正確な保険料の算出ができるようになる。

■ 収支相等の原則

- 収入保険料総額が、支払保険金総額と等しくなることを「収支相等の原則」という。

$$\text{保険料} \times \text{加入者数} = \text{保険金} \times \text{死亡者数}$$

➤ 大数の法則の例

男女出生数

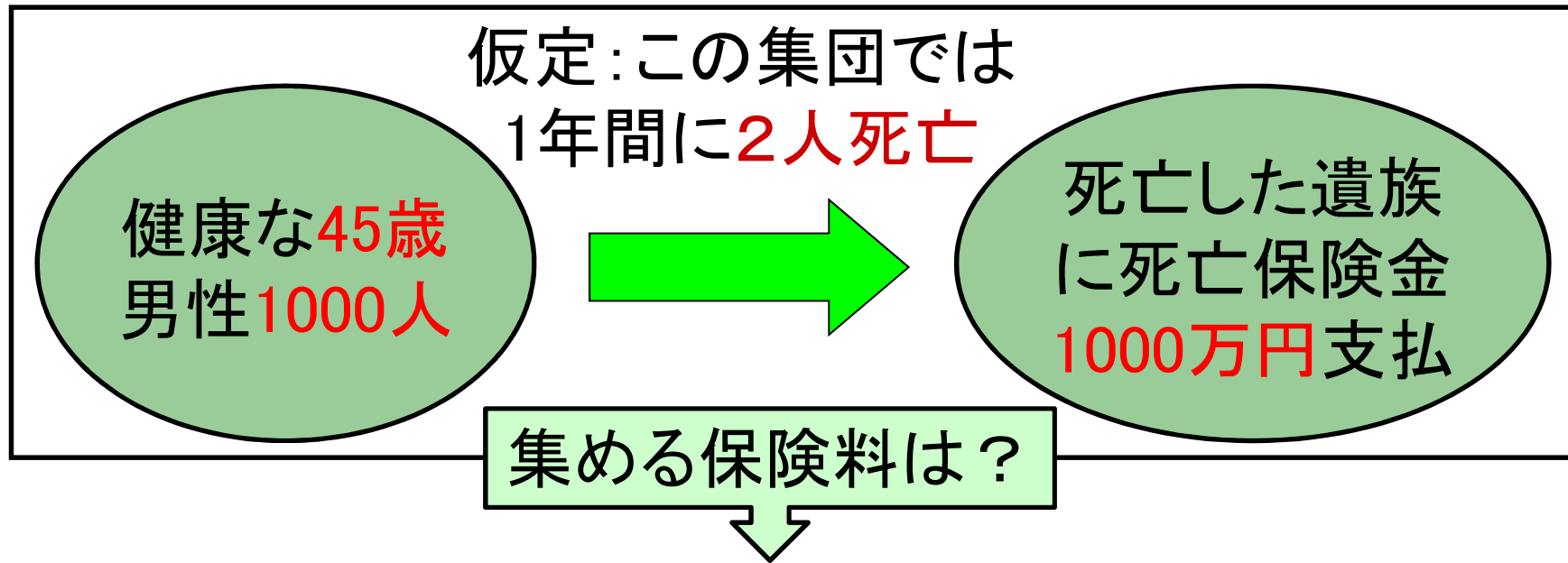
各家庭で子どもの男女割合を見るとまちまち。



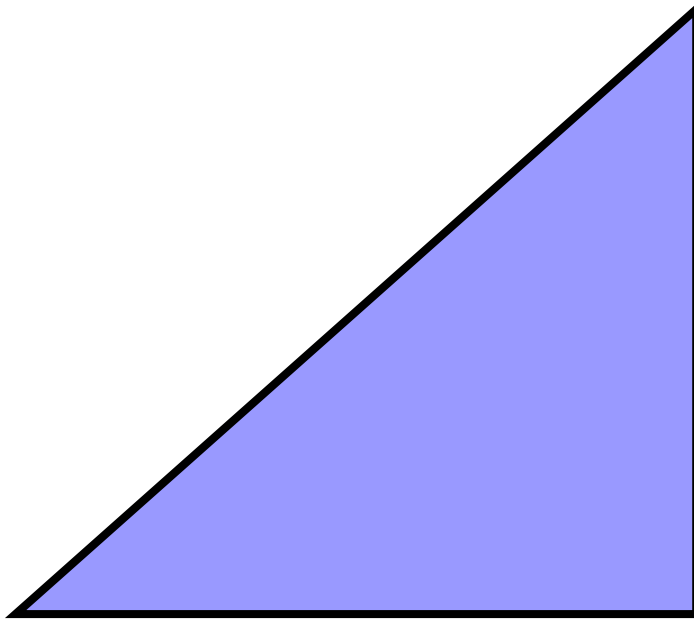
観察する範囲を日本全国に広げていくと、男女の出生率がある安定した割合に落ち着く。

年次	男性	女性
2004年	105.2 対	100
1994年	105.6 対	100
1984年	105.4 対	100

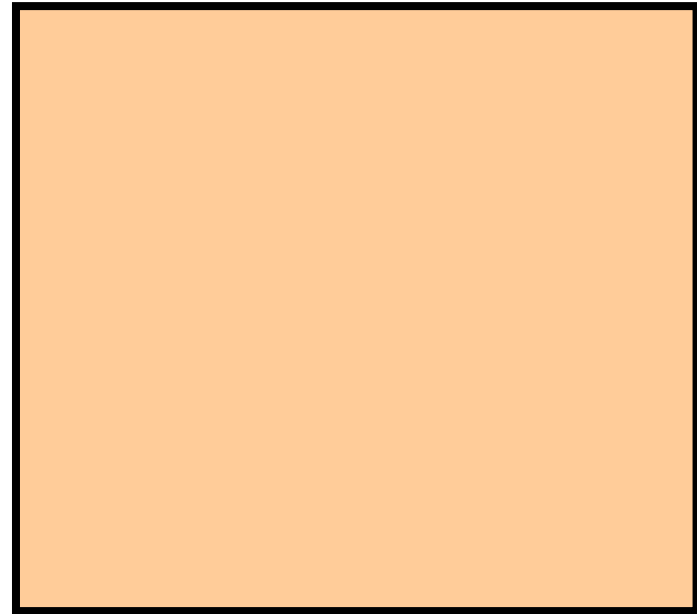
➤ 収支相等の原則の例：生命保険のしくみ



- 預貯金と保険の違い



貯金



保険

4. 私的保険の社会的役割

- 公的保険

- 「健康で文化的な最低限度の生活」を保障。

- 私的保険

- 豊かな生活をするための公的保険の補完的機能。

- 医療保障 ⇒

- 死亡保障 ⇒

- 老後保障 ⇒

- 介護保障 ⇒

- 自動車事故などの補償 ⇒

- 私的保険の種類
 - 医療(病気・ケガ)保障を目的とした保険
 - 死亡保障を目的とした保険
 - 老後保障を目的とした保険
 - 介護保障を目的とした保険
 - 火災による損失補償を目的とした保険
 - 自動車事故による損害賠償を目的とした保険
など